

労働部
用紙

かゝ状態を以て今や聯合會は経済的基礎を危く且つ運動として手も出さぬ由あり格也。今日局長二百以下七百と考へて、これに於て幹部は学理的研究を志し、先日来、此の聯合會の事務及び内には此の労働運動を用意するにせり。教師としては此の労働學校の校長、法學士、小説家、同松村、多人氏の両名を、これに充てり。毎週、月曜、金曜の二日に、此の聯合會の内外の諸問題を収束し、此の

法人 債 証 書

大正十一年十二月一日

(大阪府報)

労働部 引退

東恩 續々日存労働総同盟之所屬し、多年、同西之利
へん労働運動の指導を爲し、實際運動に力を以て
同志西尾素庵ト共ニ其ノ主腦トシ、労働者層の勢力
ヲ有セシメ、之が左人ニ際テ我國労働運動ハ頓ニ急
進ニ進歩シ、遂ケ、今ノ如クニ、而テ又、労働者ハ依
然トシテ、自覺トナセ、労働界ノ不況、官定ノ井邦
取締方針等ニ堪シ、労働運動ノ土壌ハ一變ニ張
者トナシ、現狀ニモ、リト爲シ、此ノ運動ノ一變ニ張
近時労働運動指導者各中、其ノ指導階級、殊ニ、此
向者ニ、キ、有、新、イ、労働運動ニ、関、心、

11.12.13
22/181